

第17回 町長定例記者会見

- 開催日時 平成30年6月18日(月) 午前11時～
- 開催場所 遠軽町役場2階応接室
- 記者数 3人

報道機関の皆様におかれましては、日頃より町政など地域の情報を町民にお届けいただき、心からお礼申し上げます。

それでは、今回の議題についてご説明申し上げます。

■平成30年第4回遠軽町議会（定例会）に提出する案件から

・補正予算について

本議会に提出する案件のうち、主なものについて申し上げます。

まず、学校法人浄光学園が運営する幼保連携型認定こども園こころの改築に係る補助金についてであります。

この事業は、平成25年度に改築した施設以外の幼稚園部分を改築するもので、利用する施設の面積及び園児数により、保育所等整備交付金と認定こども園施設整備交付金が交付されますが、加えて町も応分の負担をすることになります。

次に、遠軽町温暖化対策実行計画（事務事業編）策定補助業務委託についてであります。これは、国が定める「地球温暖化対策計画」に基づき、町内公共施設における省エネルギー対策を効果的に実施するため、遠軽町温暖化対策実行計画（事務事業編）を新たに策定するものです。

平成31年度から建設に着手いたします（仮称）えんがる町民センターの建設におきましても、地中熱などの再生可能エネルギーを活用した冷暖房設備等を導入し、施設のランニングコストの低減や二酸化炭素排出量を削減するものであります。

また、岩見通南1丁目排水管撤去工事につきましては、平成31年度から実施する（仮称）えんがる町民センターの本体工事に向けまして、建設用地内における既存の排水管や舗装の撤去工事等を先行して実施するものです。

■JR問題について

JR問題につきましては、北海道の呼びかけにより開催しております第2回目の6者協議が昨日開催されましたが、JR北海道に対する国の財政支援については、残念ながら示されませんでした。今後、夏ごろに一定の方向性が示されるのではないかと期待しているところです。

石北本線については、オホーツク圏活性化期成会を通じて協議に関わっているところですが、こうした場で、路線の重要性や地元の思いを伝えるには、地元の皆様方が、石北本線を守るという思いを示すことが大切であり、それにはJRに乗っていただくことが一番の方法です。

遠軽町では昨年12月に遠軽町石北本線利用促進協議会を立ち上げ、石北本線の各種利用促進策を実施しているところです。

6月2日から3日には、シンガーソングライターの桜庭和さんをお招きして、ディナーショーと石北本線を使った旅行をパッケージした企画、「桜庭和とふれあい旅」を実施したところでもあります。札幌・旭川発着のツアーには56名が参加いただき、ディナーショーには地元も含めて150名にお越しいただき盛大に開催されたところです。

JR利用促進キャンペーンとして「JRでおでかけハッピー&ラッキーキャンペーン」も5月12日から7月末日まで実施しています。遠軽駅で切符を買って対象となる5施設を巡

ると各施設で特典が受けられ、また、切符購入と施設利用時にもらえるスタンプを集めてハガキで応募していただくと、抽選で賞品が当たるというキャンペーンです。賞品にはJRタワーホテル日航札幌宿泊の旅行などを用意しています。

また、6月から7月にかけて遠軽町で行われるイベントにJRでお越しいただくと、イベント会場内で使えるお買い物チケット千円分を差し上げるというイベント連携キャンペーンも実施しています。第1弾となった藤まつりでは20名の方にご利用いただいたところです。7月には遠軽がんぼう夏まつり、いくたはらヤマベまつりでも実施いたします。

さらに、普及啓発グッズの作成として、利用促進キャッチフレーズや安彦良和氏が描かれたカボチャ団体のイラストをプリントしたクリアファイルを3千枚作成し、小中高校の児童生徒全員に配布します。

そして、遠軽町における石北本線の利用促進事業のロゴマークも作成しています。オホーツク管内で採れる農産品やスイッチバックの線路などをモチーフにデザインしたものです。今後、各種の事業に活用してまいります。

■1964年東京オリンピック遠軽町展示林について

1964年東京オリンピック遠軽町展示林につきまして、今年に入ってからのお取り組みについてご報告いたします。

まず、3月21日に木工体験会を開催し、町内小学生や関係者36名参加のもと、昨年展示林で試験伐倒した木を活用して木工品を作製しました。

また、5月12日には播種体験会を開催し、同じく町内小学生や関係者50名参加のもと、昨年展示林から採取した種子の播種体験を行いました。生育した苗は、2年後のオリンピックイヤーに展示林において植樹していく予定です。

さらに、今後の予定といたしましては、8月3日に遠軽町出身でスポーツ写真家としてご活躍されている岸本健氏と、日本スポーツ協会副会長及び日本水泳連盟副会長で東京オリンピック・パラリンピック組織委員会理事でもあります泉正文氏をお招きし、講演会や写真展なども計画しております。

展示林の活用につきましては、2020大会での活用も目指して、引き続き関係機関に対し、PRを行っていく予定です。

■姉妹都市ブラジル・バストス市訪問について

7月に姉妹都市であります、ブラジルサンパウロ州・バストス市を訪問します。

日程は7月11日から20日までの10日間となり、私のほか、町議会から今村副議長、遠軽商工会議所から渡邊会頭、えんがる町観光協会から遠藤会長、随員職員1名の計5名の訪問団となります。

バストス市は、今年、入植90周年を迎え、卵祭りとして有名な入植祭において記念セレモニーが予定されており、各種行事に参列してまいります。また、現地関係者と調整中ではありますが、サンパウロ市などの北海道協会関係者の表敬訪問なども日程に組み込みたいと考えています。

姉妹都市盟約の締結が昭和47年（1972年）となっておりますが、町長の同市訪問は、盟約締結後初のことであり、遠軽町からの公式訪問についても26年ぶりとなります。

今年は、日本人のブラジル入植開始から110年でもあり、中でも北海道からの移住者は全日系移民の約1割に及ぶとされています。北海道でブラジル国内に姉妹都市を持つのは本町だけですので、こうした歴史的経緯からも、当町とバストス市の姉妹都市交流が、今後も末永く継続できるよう、関係を深める機会にしたいと考えております。

■災害対策について

7月4日遠軽町福祉センターにおいて「遠軽町災害対策本部図上訓練」を行います。この訓練は、陸上自衛隊や警察署、網走開発建設部などの関係機関の御協力をいただき、災害対策本部における情報伝達や連携、本部内各班及び関係機関それぞれの役割分担を確認するために行うもので、今回で3回目の開催となります。

近年、全国各地で暴風雪等の災害が発生しており、本町におきましても、一昨年の8月に3つの台風が上陸、幸いにも、人命に関わる大きな被害はなかったものの、道路や河川、橋梁・公園などの被害が発生いたしました。

このことから、町民等に対する災害情報の周知、避難所の開設及び停電対策などの迅速な対応など、今回の図上訓練などを通じて関係機関や町民の皆さんと共に防災意識の高揚と、防災体制の強化を図り、災害に強いまちづくりを進めてまいります。

■いこいの森災害復興記念セレモニーについて

平成28年8月の大雨災害により、丸瀬布森林公園いこいの森の雨宮21号の軌道の流失や、キャンプサイト、遊具施設において甚大な被害を受けたところであります。

この間、地元の関係者はもとより、全国から早期の災害復旧に対する多額のご寄附をいただきました。この場をお借りいたしまして、お礼を申し上げます。

足掛け3年の期間を要しました災害復旧工事並びに整備工事も順調に進み、7月中旬までには最後となる遊具施設等が完成する見込みとなりました。

つきましては、本年7月21日午前10時30分から、いこいの森のゴーカート乗り場前におきまして「いこいの森災害復興記念セレモニー」を開催する運びとなりました。

当日は、復興記念セレモニー参加者先着200名の方への記念品（クリアファイル）を贈呈するほか、各種遊具の無料開放や、雨宮21号のプレミアム運行を予定しております。

是非、この機会に、復興した施設をご覧いただき、更なる集客に向けまして全国へPRしていただければ幸いです。

■陸上自衛隊遠軽駐屯地創立67周年記念行事及び市中パレードについて

7月1日に陸上自衛隊遠軽駐屯地創立67周年記念行事が開催されます。これにあわせまして、前日の6月30日に市中パレードが行われます。会場はいわね大橋の交差点からげんき21前となっております。時間は午前10時からで、その前後を含め交通規制が実施されます。

多くの皆様にお越し頂きたいと思っております。

■遠軽町埋蔵文化財センター第2回企画展について

遠軽町埋蔵文化財センター第2回企画展「松浦武四郎：由宇辺都誌を辿る旅展」を7月21日から9月24日まで開催いたします。

この企画展は、北海道の名付け親と呼ばれる、幕末の探検家・松浦武四郎の紀行文を辿りながら、遠軽町出身のアニメーター安彦良和さんのイラストとともに振り返ります。

また、遠軽町出身で、武四郎研究の第1人者と知られる故秋葉實さんの生涯を紹介いたします。

なお、企画展の関連イベントとして期間中にはリアル謎解きゲーム「インカルシの伝説」を開催いたします。参加特典として抽選で1名様にマウレ山荘宿泊券5万円分をプレゼントいたします。ゲームの物語は、武四郎が残した1通の手紙「150年後に開封せよ」を手掛かりに謎解きに挑戦していただくゲームであります。

是非、この機会に、たくさんの方々をご観覧、ご参加くださいますようお願いいたします。

■遠軽地区地域医療対策連携会議の取り組みについて

本日、6月18日午後4時より、遠軽商工会議所主催、遠軽地区地域医療対策連携会議共催の北見赤十字病院の明日を考え支援する会代表逢坂信治氏、副代表の谷川勝男氏、事務局長の阿久津俊子氏を招いて、「明日の豊かな地域医療に向かって」をテーマに、地域医療を考える講演会が開催されます。

この講演会を通して、遠軽地区の多くの皆様が地域医療に対する本質的な理解を深め、地域医療を守っていくという気運の醸成を図りたいと考えております。

■平成30年度国民健康保険税率の改定について

平成30年度国民健康保険税率の改定であります。財政運営の責任主体が北海道となる平成30年度からの国保都道府県単位化を機に税率を見直し改定しました。

6月16日土曜日の北海道新聞朝刊の記事で、65歳以上の年金収入150万円の単身世帯で対前年度比「33.5%増」の保険税になり、北海道で一番このモデル世帯で増加率が高い市町村と報道がありました。これは新保険税率の算定過程において賦課割合の変更や資産割額を廃止した影響によるものです。

今回の改定に当たっては、高齢者に偏っている固定資産税割を廃止し、全体として公平感を持てるような所得割、均等割、平等割の3方式とし、高齢者に配慮した見直しとしております。その結果、65歳以上で今まで資産割が課税されていなかった5.6%の世帯について、報道のとおり増となります。本年度のこのモデル世帯における実際の賦課額では、前年度に本年度から廃止した資産割が賦課されていた世帯も多くあることから賦課額は1世帯平均で「1,000円程」減少する結果となっています。

年齢や世帯の被保険数、そして所得の多寡や固定資産税により、これまでと改定後の年税額は世帯によって異なってきますが、適正な保険負担となるよう保険税率を改定しましたので、被保険者の皆さまにはご理解をいただきますようお願いいたします。